

クラスの様子【9月号】

●ひよこりす組 **今月の目標** 季節の移り変わりを感じられるような活動、戸外で体を動かした活動を楽しむ。

8月は雨の日も多く室内で活動することもありましたが、晴れた日にはベランダで存分に水遊びを楽しむこともできました。最初は水に対して苦手意識を持っていた子や水遊びに対して消極的であった子も、回数を重ね、他の子の遊ぶ姿を眺めていく中でどんどん積極的に、意欲的に参加することができるようになっていました。また、もともと水遊びが好きだった子は、もちろん元気いっぱいダイナミックに水遊びを楽しんでいたのですが、そんなダイナミックに遊ぶ子、静かに落ち着いて水遊びを楽しみたい子、まだハイハイのひよこさんと様々な状態の子達が同じベランダの中で一緒に遊んでいるのに、それぞれがそれぞれの邪魔をすることもなく、ケンカになったりすることもなく遊べていることは、本人達には自覚はないにしろ、お互い（他者）のことをしっかりと意識することができるのだらうなど、子ども達の成長と良い関係性を感じることができました。これからも人との関わり、触れ合いや、自分のしたい遊びを存分に楽しむことができる環境を大切に、毎日の生活を送っていきたいと思います。(安田)



●うさぎ組 **今月の目標** 戸外でのびのびと身体を動かし、全身を使う遊びを楽しむ。

8月は天気のいい日には水遊び・泥んこ遊び・プール遊びなど夏らしい遊びをたくさん楽しむことができました。泥の感触や水の温度の違いなど実際に触れてみることで、自分たちで発見をしたり、友だちと考えながら遊ぶ姿もありました。衣服の着脱の面でも自分でできることが日に日に増えていき、「すごい!」「できるようになったね!」と一緒に喜びを感じることで自信がついてきているようでした。また、お兄ちゃん・お姉ちゃんたちが幼児棟の大きなプールに入っている様子をじーっと観察する様子もあり、一度幼児棟のプールを借りて入ってみることもできました。いつもと違う大きなプールに緊張気味の子もいましたが、とてもいい経験となり、大きいクラスへの憧れや期待にも繋がったのではないかと思います。



春ごろに植えたアサガオとヒマワリの種がすくすくと育ち、ついに花を咲かせました。水やりをしたり、芽が出て大きくなっていく様子を観察する中で、大雨や台風の時には「お花大丈夫かな?」と心配する様子もあり、植物のお世話を通して新しい発見や成長していく喜びなどを感じられたのではないかと思います。(平塚)



クラスの様子【9月号】

●年少・年中組 **今月の目標** 季節の移り変わりを肌で感じながら、戸外でたくさん身体を動かすことを楽しむ。
(年少・年中組)

8月に入り幼児棟はコーナーがガラッと変わり、A・B合同で過ごす時間が増えました。今まで離れて活動していた分仲の良い子と一緒に遊べるようになり、年齢・グループ問わずいろんなお友達と関わっている姿が見られます。夏本番になり熱中症警戒アラートの関係で水遊びが少なくなってしまいましたが、プールや水遊びだけでなく、集団遊びや製作などさまざまな活動に取り組みました。A・B混ざっての活動では選択する際は他の部屋を見に行き行って友だちの活動を見てから決めたり、声を掛けあって同じ活動にしたりとお友だちのことを気にする子どもも多くいて、子どもたちの喜びをととも感じます。これから涼しくなるにつれて戸外を中心にさまざまな活動をいろんなお友だちと取り組めるよう、そして10月の運動会に向けてたくさん身体を動かして体力もつけていきたいと思います。



●ライオン組

ライオン組の子どもたちが心待ちにしていた一大イベントお泊まり保育も無事終わり、子どもたちは次の楽しみに向けてウキウキしています。お泊まり保育当日、朝から雲行きも怪しく雨が降ったり止んだりして子どもたちの楽しみにしていたチーム対抗の水遊びの開催も怪しまれましたが、天気も回復し無事開催することができました。前日に自分の好きな色を牛乳パックに塗り背負いたい子だけが背負ってスタート。水がかかりたくない子は水溜め係など子どもたちなりにうまく役割分担をしてそれぞれが自分の役割を全うし楽しんでいました。結果はゆいチームの勝利! 「つぎはなにでたいけつする?」と、もう次を楽しみにしています。再登園の際はスムーズな子ばかりで私たちも驚いていましたが、寂しくなるとお互いが声を掛け合ったり、夜のミッションではグループ内で支え合い全グループ最後まで頑張りました。子どもによっては長い夜になりお母さんが恋しくなってきた気持ちを抑えきれなかったり泣き出してしまう子もいましたが途中で帰った子も、最後まで残った子もそれぞれ自分の思いと葛藤して自分の最大限までやり遂げたと思います。対面式、保護者の方を前にして気持ちがこみあげてくる子もいる中、誇らしげな表情・思いで子どもたちは保護者の方と再会できたのではないのでしょうか。子どもたちにとって、そして保護者の方にとっても大きく一歩進めたお泊まり保育になっていると私たちも嬉しく思いました。ご協力ありがとうございました。(倉田)

